

令和 7（2025）年度事業報告書

I 公益財団法人京都市環境保全活動推進協会 法人概要

1 設立目的及び概況

(1) 設立目的

この法人は、持続性可能な社会、すなわち脱炭素社会・循環型社会・自然共生社会を実現するため、市民・事業者・行政・教育機関と連携を強め、広く環境保全活動を推進することにより、環境に配慮した市民の自主的な行動による地域社会づくりに寄与することを目的とする。

(2) 概 況

ア 設立年月日

2001 年 2 月 14 日

イ 基本財産

金 52,363,000 円

ウ 実施事業

- (ア) 環境意識の普及、啓発に関する事業
- (イ) 環境情報の発信事業
- (ウ) 環境保全に関する調査、研究に関する事業
- (エ) 環境教育及び人材育成に関する事業
- (オ) 環境保全のための市民、事業者等との連携、支援に関する事業
- (カ) 環境意識の向上のための国際的な連携、支援に関する事業
- (キ) 環境保全活動に関する施設の管理運営
- (ク) その他、この法人の公益目的を達成するために必要な事業

2 役員等の状況（2026 年 3 月 31 日現在）

(1) 役員等の数

理事長 1 人 専務理事 1 人 理事 9 人 監事 2 人 評議員 9 人

(2) 役員等名簿

ア 役員名簿

（敬称略・順不同）

役 職	氏 名	備 考
理 事 長	新川 達郎	同志社大学名誉教授
専務理事	三科 卓巳	前京都市西京区長
理 事	杵本 育生	特定非営利活動法人環境市民代表理事
〃	田浦 健朗	特定非営利活動法人気候ネットワーク事務局長
〃	高野 拓樹	京都光華女子大学教授 学長特別補佐
〃	中田富士男	京都市ごみ減量推進会議会長

理 事	橋本 直子	株式会社 Hibana 代表取締役
〃	花田真理子	地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所客員研究員
〃	原 強	京都循環経済研究所所長
〃	久山喜久雄	フィールドソサイエティー代表
〃	細貝 拓也	京都市環境政策局地球温暖化対策室エネルギー政策部長
監 事	野村 克章	税理士
〃	水口 重忠	元京都市伏見区長

イ 評議員名簿

(敬称略・順不同)

役 職	氏 名	備 考
評 議 員	泉 真吾	株式会社京都銀行公務・地域連携部観光地域活性化室長
〃	市川 智史	滋賀大学環境総合研究センター教授
〃	周 瑋生	立命館大学政策科学部特任教授
〃	田中 克	京都大学名誉教授
〃	永橋 爲介	立命館大学産業社会学部教授
〃	西本 清一	公益財団法人京都高度技術研究所理事長
〃	南山 泰宏	京都教育大学環境教育実践センター教授
〃	村井 祥宏	公益財団法人京都青年会議所副理事長
〃	村上 圭子	公益財団法人国立京都国際会館事務局長

3 理事会・評議員会の開催状況

(1) 理事会

	開催日	審 議 事 項	結果
第 61 回	2025 年 5 月 26 日	代表理事及び業務執行理事の職務状況について 議第 1 号 令和 6 年（2024 年）度事業報告書（案） 議第 2 号 令和 6 年度決算報告書（案） 議第 3 号 専務理事の選定について 議第 4 号 「定時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等」（案）	承認 承認 承認 承認
第 62 回	2025 年 9 月 24 日	< 書面決議 > 議第 1 号 理事の利益相反取引に係る承認の件	承認
第 63 回	2025 年 10 月 22 日	< 書面決議 > 議第 1 号 理事の利益相反取引に係る承認の件	承認

第 64 回	2025 年 12 月 1 日	議第 1 号 基本構想中間見直しについて	承認
第 65 回	2026 年 3 月 30 日	報告事項 代表理事及び業務執行理事の職務状況について 報第 1 号 令和 7 年度（4 月～1 月）事業報告 報第 2 号 令和 7 年度決算見込 報第 3 号 「基本構想」の中間見直しについて 議第 1 号 令和 8 年（2026 年）度事業計画書（案） 議第 2 号 令和 8 年度予算書（案） 議第 3 号 評議員会の招集について（案）	承認 承認 承認

(2) 評議員会

	開催日	審 議 事 項	結果
第 20 回	2025 年 4 月 1 日	<書面決議> 議第 1 号 理事 1 名の選任 議第 2 号 評議員 1 名の選任	承認 承認
第 21 回	2025 年 6 月 11 日	報告事項 令和 6 年（2024 年）度事業報告書 議第 1 号 令和 6 年度決算報告書（案）	承認

4 職員数（2026 年 3 月 31 日現在）

理 事 長	専 務 理 事	事 務 局										合 計
		事 務 局 長	経 営 改 革 監	政 策 監	部 長	課 長	課 長 補 佐	職 員	再 雇 用 職 員	非 常 勤 職 員	臨 時 職 員	
1	1	1	2	1	3(1)	4	6	12	1	6	8	45

※事務局長は部長事務取扱としている。（部長欄（ ）内が事務取扱）

Ⅱ 公益目的事業

※（ ）内4桁数字は協会事業番号

【1】環境保全活動拠点事業

1 京都市環境保全活動センター（京エコロジーセンター）指定管理業務

- (1) 環境の保全に関する活動のための施設の提供(1111)
- (2) 環境の保全に関する資料及び装置の展示(1121)
- (3) 環境の保全に関する情報の収集及び提供(1131)
- (4) 環境副読本発行(1142)
- (5) ホームページ等による情報発信(1144)
- (6) 環境の保全に関する講座、研修等の開催(1145)
- (7) 環境保全促進のための研究、調査等(1146)
- (8) 環境ボランティアの育成(1147)
- (9) 環境保全活動に関わる人材の育成(1148)
- (10) 国内外の他都市との連携(1149)
- (11) 大学生の環境活動支援(1150)
- (12) アウトリーチ（センター外での実施）(1151)

2 さすてな京都（南部クリーンセンター環境学習施設）運営業務(2101) ※受託事業

【2】国際事業

国際事業（調査、案件形成等）(1205)

- (1) JICA 草の根技術協力事業 ベトナム社会主義共和国「コミュニティベースのごみ減量と分別の仕組み構築支援事業」申請
- (2) 外務省NGO連携無償資金協力 マレーシア「住民主体のごみの減量化および適切な処理の仕組み構築事業」申請

【3】地域環境活動支援事業 ※受託事業

- 1 「エコ学区」ステップアップ事業に係る学習会等支援事業(1301)
- 2 京都発脱炭素ライフスタイル推進に係るプロジェクト創出及び実証支援等業務
 - (1) 企業等連携プロジェクトの創出及び実証支援事業(1304)
 - (2) 環境探究プログラムの開発(1311)
- 3 住宅の再エネ地産地消・地域循環推進事業(1307)
- 4 京都0円ソーラープラットフォーム
 - (1) 住宅向け0円ソーラー(1503)
 - (2) 太陽光発電プラットフォーム事業(1504)
- 5 環境教育・学習推進業務(1306)
- 6 ごみ減量推進事業
 - (1) 普及啓発(1621)
 - (2) ごみ減量事業化(1622)
 - (3) 地域活動(1623)

(4) 2 R型エコタウン構築事業(1624)

【4】講師派遣事業 ※自主事業

講師派遣・講座の企画実施（セミナー・研修・イベント等）(1401)

【5】調査・研究・開発・発信事業 ※自主事業

- 1 脱炭素先行地域・グリーン人材育成支援事業(1310)
- 2 バイオマス有効活用推進事業(1514)
- 3 きょうと環境活動応援事業(1521)
- 4 ごみ減量推進事業 会費等を活用した自主事業(1625)
- 5 京のアジェンダ21フォーラム事業
 - (1) 観光のエコ化の推進(1704)
 - (2) 会費等を活用した自主事業(1708)
 - (3) ネイチャーポジティブプラットフォーム(1710)
- 6 その他調査・研究・開発・発信(1501)
 - (1) 学会等での発表、研究会・実行委員会等への参画
- 7 万博のフードトラックにおけるリユース食器運用事業(1524)

Ⅲ 収益事業

貸会場運営事業(5101)

Ⅳ その他事業（相互扶助等事業）

機密書類リサイクル事業(6101)

Ⅱ 公益目的事業

【1】環境保全活動拠点事業

1 京エコロジーセンター（京都市環境保全活動センター）指定管理業務

令和7年度合計の入館者数は、前年度を僅かに下回り、97%となりました。

令和7年度（前年同期比）	令和6年度
79,580人（97%）	81,680人

※前年同期比は、小数点以下四捨五入

※令和7年度の開館日数：314日 令和6年度同開館日数：313日

（1）環境の保全に関する活動のための施設の提供(1111)

（2）環境の保全に関する資料及び装置の展示(1121)

ア 企画展（ボランティア自主企画を除く）

環境保全活動のための企画展を開催しました。

期間	タイトル（共催団体等）
3/28～5/7	謎解きダンボール迷路（第2弾） （深草支所地域力推進室／協力：株式会社トヨタ）
4/18～7/2	太陽光ミニコーナー
5/14～7/2	こんなところにも太陽光！～京都・脱炭素アクションの紹介～
5/31～7/14	写真家・飯村茂樹氏写真展「田んぼの生き物大集合！」
7/18～7/31	100年以上の伝統をつなぐ世界・日本農業遺産（近畿農政局）
8/1～9/1	京都環境賞受賞者の活動紹介パネル展 （京都市環境政策局 環境企画部 環境保全創造課）
11/21～12/27	都っとんを使ったクリスマス装飾 （深草支所地域力推進室／協力：おくだばらえん、専門学校大阪ビジネス・アカデミー、京都市南部農業振興センター）
12/6～1/18	再生環境カレンダー展 ～ハイムーン版画の魅力～ （株式会社ファインワークス）
1/17～3/11	ようこそ父島へ！（立命館宇治高校 IB コース）
2/24～3/8	深草支所管内の保育園・子ども園による絵画展 （深草支所子どもはぐくみ室）
2/24～3/8	雛飾りの展示（深草支所子どもはぐくみ室）

・上記の共同主催型企画展の関連イベント・セミナー

開催日	タイトル	人数
5/10、5/24 6/14、6/28	太陽光と省エネを学ぶミニツアー	3人
1/17	ハイムーン版画教室 ～色刷りを楽しもう～	26人

イ 巡回展示

開催日	実施場所
3 / 3 ～ 4 / 20	東京練馬区立四季の香ローズガーデン
5 / 28 ～ 7 / 2	京都市伏見区役所醍醐支所
10 / 26	洛和メディカル
12 / 15 ～ 3 / 16	イズミヤショッピングセンター白梅町

ウ 「エコセン通い帳」(※1) の参加人数

参加人数	「エコの達人認定証」(※2) の発行数
1,774 人	110 枚

※1：当センターに繰り返し来館することを促進するもの

※2：「エコセン通い帳」に10回参加した方を表彰するもの

エ 「木のおもちゃひろば」の利用数

利用組数	利用者数
3,596 組	10,054 人

オ エントランス貸出ツール BOX「ちきゅまるのはこ」の利用数

利用組数	利用者数
1,248 組	3,258 人

カ 常設展示(含：屋上)

当センターの南側に設置したグリーンカーテン(アサガオ、ヒョウタン、ヘチマの3種類)を活かし、当センターの2階に、啓発用の展示を行いました。

キ 施設の地域開放

施設の地域開放の一環として、1階エントランスを無料で貸し出し、伏見わっか朝市(主催：フシミノワ)の開催を支援しています。年間49回開催されました。

ク アンケート

来館者から回収したアンケートの件数は、以下のとおりです。

有効回答	うち、20歳以上
229 件	62 件

なお、令和6年度までは来館者へのアンケートについて分析・報告してきましたが、回答者の多くが20歳未満(大半が小学生以下)であり、かつリピーターが中心であったため、令和7年7月から、分析・報告の対象を、団体見学(館内案内ツアー)への参加者に対するアンケートに改訂しました。改訂後に実施した団体見学(館内案内ツアー)への参加者から回収したアンケートの結果は、以下のとおりです。(16団体、263件)

・展示や案内のわかりやすさに関する設問

有効回答	とても	やや	どちらともいえない	あまり	全く
263 件	207 件 (79%)	45 件 (17%)	9 件 (3%)	2 件 (1%)	0 件

・スタッフ(含：環境ボランティア)の対応の良さに関する設問

有効回答	とても	やや	どちらともいえない	あまり	全く
------	-----	----	-----------	-----	----

263 件	234 件 (89%)	22 件 (8%)	4 件 (2%)	2 件 (1%)	1 件 (0%)
-------	----------------	--------------	-------------	-------------	-------------

・来館前と団体見学後での、環境問題への関心の変化

団体見学後 来館前	とても	やや	どちら ともい えない	あまり	全く	合計
やや	86 件	38 件	2 件	0 件	0 件	126 件
どちらとも	15 件	24 件	2 件	1 件	0 件	42 件
あまり	4 件	6 件	0 件	1 件	0 件	11 件
全く	2 件	1 件	1 件	1 件	0 件	5 件
合計	107 件	69 件	5 件	3 件	0 件	184 件

※来館前から環境問題に“とても”関心があった 79 件を除いた 184 件について分析

(3) 環境の保全に関する情報の収集及び提供(1131)

団体見学、京都市立小学校向けのエコ学習の実績は、以下のとおりです。

ア 団体見学

団体数	参加人数
200組	3,921人

イ 京都市立小学校向けのエコ学習

団体数	参加人数
62校	1,035人

ウ 出前講座

開催日	実施場所	参加人数
6/12	西大路小学校	29人
7/4	桃陽総合支援学校	5人

エ 京都聖母学院小学校との取り組み

京都聖母学院小学校内の探求クラブの活動（小学5・6年生。開始時は10名）を年間通じて支援しました。

探求結果の発表の場として、3/14に公開イベント「SEIBO エコエコ DAY in エコセン 2026」が当センターで開催され、児童による発表が行われました。この中で、「里山たいけん隊」の参加児童1名から当該講座で学んだことの発表がありました。

オ 藤森中学校との取り組み

昨年に引き続き、当センター隣の藤森中学校2年生（全7クラス）の保育実習（家庭科）の場として、当センターの施設ならびにツール（木琴ベンチ、木のおもちゃなど）を提供しました。

藤森中学校の生徒には、事前に、当センターの職員が各クラス40分ずつ、“環境学習”（当センターの展示・ツールについて、環境問題と暮らしのつながりについて）を実施

しました。

そのうえで、下記のとおり幼稚園・保育園の園児を当センターに招き、藤森中学校の生徒自身が、“環境学習”で学んだことを取り入れた保育実習を行いました。

	日付	藤森中学校	幼稚園等	園児数
1	12/8	34人	竹田幼稚園	41人
2	12/9	32人	青風幼稚園	35人
3	12/10	34人	西院保育園	40人
4	12/12	29人	伏見南浜幼稚園	19人
5	12/16	34人	深草保育園	30人
6	12/17	28人	錦林保育園	22人
7	12/19	36人	改進黨育所	31人
—	合計	227人	—	218人

カ 博物館実習の受け入れ

八洲学園大学の学生（※）からの要請を受けて、学芸員資格の取得に必要な実習を、7月および8月に合計6回行いました。

※社会人

（４） 環境副読本発行(1142)

令和7年度版の各環境副読本（小学4年生用、小学5・6年生用、中学生用）を京都市内の全小中学校及び関連施設に配布しました。在庫分は、団体見学などの機会に適宜活用するとともに、当センター内に配架しました。

また、令和8年度版の各環境副読本（小学4年生用、小学5・6年生用、中学生用）を更新・作成し、京都市内の全小中学校に4月に到着する手配を終えました。

なお、令和8年度版の環境副読本（中学生用）は全面改訂を行い、探究学習の導入をコンセプトに、気候変動・ごみ・自然などの身近な環境課題をテーマとし、各教科の学習と関連づけた内容にしました。

（５） ホームページ等による情報発信(1144)

イベント案内チラシを、各4,600部を7回作成し、配布・配架しました。

その他、「市民しんぶん」や「あつまれ！京わくわくのトビラ」などの外部のイベント情報媒体等にもイベント情報や企画展情報などを掲載しました。

当センターホームページに設置しているフォームより他団体主催のイベント情報を受け付け、それらも当センターのホームページにて情報発信しました。

また、ブログ、Facebook、X、メールマガジンに加えて、Instagramを新たに開始し、環境啓発に関する発信を強化しています。

この他、1/25開催のイベント「京鹿の子絞ハンカチ染め体験」について京都新聞から取材があり、2/15の京都新聞「ジュニアタイムズ」に掲載されました。

(6) 環境の保全に関する講座、研修等の開催(1145)

子どもから大人までを対象としたイベント、講座等を開催しました。

ア イベント、講座（ボランティア自主企画を除く）

以下のとおり、イベント、講座を開催しました。

なお、12/16 のイベントは、インターンシップの大学生が企画して実施しました。

開催日	タイトル	講師等	人数
4/20	ちきゅまるグリーティング	—	56 人
4/21	映画『いただきます1 みそをつくるこどもたち』 &みそづくり』	京都こどもクッキング	39 人
4/21	映画『いただきます1 みそをつくるこどもたち』 上映会	監督・オオタ ヴィン 氏	11 人
7/19	「カラダに、地球に、優しいめんつゆ作り」	community Cafe&Deli hinolino	9 人
7/21	出張エコまちステーション	エコまちステーション	107 人
7/22	エコの学校「カレットアート」	宝酒造株式会社	37 人
7/30	地球環境カードゲーム「マイアース」体験会	京都精華学園高校	32 人
8/11	出張エコまちステーション	エコまちステーション	171 人
8/17	牛乳パックからオリジナルハガキをつくろう	京都市ごみ減量めぐる くん推進友の会	108 人
8/30	メキシコの伝統工芸品【アレブリヘ】を作ろう！	ガブリエラ、アイリィ ン、カティア、ヤイデ ィ※JICA 研修員（京都 工芸繊維大学）	11 人
9/23	祝日 ミニ エ〜コと伏見 in 京エコロジーセンター	エコまちステーション	125 人
10/13	祝日 ミニ エ〜コと伏見 in 京エコロジーセンター	エコまちステーション	70 人
10/18	MIXBIKE で作る、レスキューミックスジュース！	株式会社マガザン、株 式会社おいかげ	19 人
11/ 1	廃棄ゼロクッキング〜食品ロスゼロを目指して〜	立命館宇治高等学校	15 人
11/ 2	多文化交流エコ工作ハロウィン 2025	深草支所子どもはぐく み室、NPO 法人京都子 育てネットワーク	26 人
11/ 2	衣服のアップサイクルワークショップ	京都光華女子大学タバ ラボ、株式会社カラー ループ	22 人
11/ 2 〜 3	¥0 マーケット@エコセン	株式会社ヒューマンフ ォーラム	196 人

12/6	四季のエコアートラボ 「親子であそんで五感で学ぶ自然のひろば“秋の ‘1 ページ絵本’ づくり”」	深草支所子どもはぐく み室、NPO 法人京都子 育てネットワーク	23 人
12/7	竹でつくろう！クリスマス飾り	深草支所地域力推進 室、NPO 法人京都深草 ふれあい隊 竹と緑、 龍谷大学社会学部坂本 ゼミナール	26 人
12/16	ほしぞらカフェ ～灯りがつなぐ人と地球～	インターン生	6 人
12/21	農薬を使っていないから安心！バラのバスソルトづ くり	深草支所地域力推進 室、おくだばらえん 専門学校大阪ビジネ ス・アカデミー	45 人
1/25	京都の伝統でエコを学ぶ！京鹿の子絞り染め体験	公益財団法人 京都伝統 産業交流センター、京 鹿の子絞振興協同組合	68 人
2/7	～炭から墨まで“ふしぎ”発見！～深草の竹炭墨汁 づくり	深草支所地域力推進室、 京エコロジーセンター	29 人
2/11	祝日 ミニ エ〜コと伏見 in 京エコロジーセンター	エコまちステーション	125 人
2/14	異文化探究イベント～「マレーシアの暮らし」講演 &マレーシアの伝統的なしぼり染め体験～	マルハ・ザヒヤ氏	9 人
2/21	手前味噌を作ってみよう	生活クラブ京都エル・ コープ	43 人
2/23	祝日 ミニ エ〜コと伏見 in 京エコロジーセンター	エコまちステーション	112 人
2/28	自然とめぐる豊かな暮らしを探して	フシミノワ、ひでみ農園	27 人
3/14	SEIBO エコエコ DAY in エコセン 2026	京都聖母学院小学校	35 人
3/28	こども料理教室春野菜で彩るオーガニックキンパ	Junwa	23 人

イ チキユマルヒロバ

「ちきゅまるひろば」（来館者の多い日曜日のイベントを増やす目的の、当センターの職員等によるオリジナルイベント）は、合計 12 日程で、24 回実施しました。

なお、9/21、10/5、10/19 は、インターンシップの大学生が企画して実施しました。

開催日	タイトル	主なテーマ	人数
5/18	電車はエコなのりもの？そのひみつを探検せよ！	脱炭素	28 人
6/15	果物・野菜の旬を当てよう！	脱炭素	17 人
7/20	おりがみでつくる！海のせかい	海洋ごみ	13 人

8/18	おりがみでつくる！海のせかい	海洋ごみ	10 人
9/21	いっしょにぶんべつバトルをしよう	資源循環	13 人
10/5	地球の救世主！植物のふしぎ	自然	13 人
10/19	水をきれいにする実験を体験しよう	自然	28 人
11/16	うみの宝ものさがし	水資源	19 人
12/21	電車がエコなひみつを探検せよ！	脱炭素	12 人
1/18	冬の果物を探そう、屋上ビオトープ探検	自然	21 人
2/15	葉っぱでおえかき！～しぜんのひみつ発見～	自然	19 人
3/22	電車がエコなひみつを探検せよ！	脱炭素	22 人

ウ 「里山たいけん隊」

令和7年度の新たな試みとして、自然共生・生物多様性を学ぶ連続講座「里山たいけん隊～京都の自然と、私たちとのつながりを知ろう！～」を開催しました。京都の里山にくらす生き物と人とのつながりを、様々な体験を通じて学んでもらうことが狙いで、きょうと生物多様性センターをはじめとした多くの施設・団体と連携しながら、5月から11月に全6回開催し、15家族35名の参加がありました。

また、田植えの後の田んぼの様子や稲の成長具合を知ってもらうために、写真の連携、動画の配信、自由参加での観察会（7/30、8/19）を実施しました。

参加者に対しては、連続講座の開始前と開始後に行動変容に関するアンケートを取得し、分析結果を今後の事業に活かしていきます。

—	開催日	主な活動内容	人数
第1回	5/31	田植えの体験と土壌生物の観察 ・場所：京都教育大学環境教育実践センター ・協力：落ち葉探偵	31 人
第2回	6/21	京都の池で暮らす生き物の観察と植生管理の体験 ・場所：深泥池 ・協力：深泥池水生生物研究会、きょうと生物多様性センター	32 人
第3回	7/26	里山の鳥の生態の学習 ・場所・共催：京都市動物園	28 人
第4回	9/27	稲刈り体験 ・場所：京都教育大学環境教育実践センター	30 人
第5回	10/25	雲ヶ畑・足谷での採蜜体験 足谷での苗木の採集と炭盆栽づくり ・場所：雲ヶ畑の足谷小屋周辺、元雲ヶ畑小中学校 ・協力：雲ヶ畑・足谷 人と自然の会、蜂蜜荘、山のひとと町の人を結び鯛	34 人

第6回	11/15	講座のまとめ（田んぼの生物多様性、豊岡市におけるコウノトリと共に生きるまちづくり、京エコロジーセンターの屋上の素材を使ったワークショップ など） ・場所：京エコロジーセンター ・講師：豊岡市コウノトリ共生部 ※オンラインで講演	26人
-----	-------	---	-----

（7） 環境保全促進のための研究、調査等(1146)

ア 研究・調査

ソーシャルインパクト等を脱炭素ライフスタイル活動の効果測定手法として活用する研究、調査として、プロジェクト成果を測るためのインタビュー調査を5件実施しました。その結果をもとにコミュニケーションレポートを作成し、12月の交流会で配布しました。

また、京都市における太陽光発電の普及拡大に関し、京都市に対する政策提言を行えるよう、研究、調査を行いました。

イ 環境保全促進のためのネットワーク構築等

京都市と連携して推進してきた「京都発脱炭素ライフスタイル推進チーム～2050京創ミーティング～」におけるプロジェクトにおいて、その拡大と新たな事業者等との連携を促す「2050京創プラットフォーム」への参画事業者の呼びかけと受付作業を行い、80社の登録がありました。また、以下のとおりプラットフォーム参加事業者の交流会を2回、地域とつながる交流会を1回開催しました。

開催日	行事名	場所	人数
9/5	SDGs×2050京創プラットフォーム交流会	KYOCA 京果会館	60人
12/18	まちと企業がつながるとき～脱炭素な行動をふわつと京都から創る～	QUESTION	52人
3/25	第2回2050京創プラットフォーム事業者交流会	京都商工会議所	37人

（8） 環境ボランティアの育成(1147)

令和7年度登録者から、エコメイトの役割を理解し、環境問題や京エコロジーセンターの学習プログラムへの理解を深め、伝える力を確実に付けてもらうことを目的に「エコセusstappアップ」を導入しました。令和7年度は、1年目のエコメイトを対象に、着実にスキルアップを目指してもらうため、達成目標を明確に設定し、エコメイト活動に参加していただきました。

マネジメントの会を1年間を通じて実施し、ボランティア活動に対する不安や悩みを解消しました。3月には、エコメイトの年間ふりかえりの会、エコメイト23期修了証授与式を行い、11の方が京エコサポーターに登録されました。

各種研修は、ボランティアの環境に関する知識等の向上を目的としたボランティア研修を7回（臨時の1回を含む）、館内案内や来館者対応等のスキル向上を目的とした実践研修を6回行いました。11月の社会見学は、兵庫県洲本市を訪問し、地域でのエネルギー循

環について、洲本市役所の方に施策や実際の発電現場などを案内していただきました。

ボランティアが自主的な活動を展開するグループ活動として、自主企画イベントが 29 件、企画展示が 4 件実施されました。

エコメイト養成講座の事前説明会を 10 月から実施し、54 人の参加がありました。このうち 31 人が 1 月からのエコメイト養成講座に参加し、最終的に 27 人の方から 26 期エコメイトの登録がありました。

◇マネジメントの会

開催日	タイトル	対象	人数
4/6	登録証授与式	エコメイト 25 期	25 人
4/6	スタートアップの会	エコメイト	33 人
5/17	グループ活動説明会&報告会	エコメイト、京エコサポーター	33 人
9/7	館長のお話	エコメイト、京エコサポーター	27 人
9/7	中間ふりかえりの会	エコメイト	24 人
10/19	エコセンボランティアミーティング	エコメイト、京エコサポーター	31 人
3/15	年間ふりかえりの会	エコメイト	31 人
3/15	修了証授与式	エコメイト、京エコサポーター	28 人

◇各種研修

開催日	タイトル	人数
4/26	ボランティア研修①「紙芝居」	36 人
5/9	プログラム実践①「小 4 エコ学習/ごみへらし隊」	20 人
6/22	ボランティア研修②「生物多様性」	44 人
7/16	通い帳実践	16 人
7/28	ボランティア研修③「水」	40 人
8/6	ガイド実践（施設）	30 人
9/22	展示解説実践（プログラム企画）	16 人
9/29	展示解説実践（プログラム企画）	16 人
10/8	プログラム実践「小 5 エコ学習/地球温暖化ふせぎ隊」	20 人
11/18	ボランティア研修④社会見学「電気」	36 人
11/29	ボランティア研修（インターン企画）「エコセン・秋のホンネ収穫祭」	11 人
12/7	ボランティア研修⑤「ごみ」	37 人
2/7	ボランティア研修⑥「地球温暖化最新情報」	46 人

◇ボランティアによる自主企画イベント

※ 1 登録グループ：長期的なミッション達成のため年間計画を基に通年で活動

※ 2 ワーキンググループ：単発のイベントや行事等の実施を目的に活動

開催日	タイトル	実施グループ名	人数
4/12	家庭の省エネ相談所	ワーキンググループ「家庭の省エネ診断」	18 人
4/29	絵本の読み聞かせ	登録グループ「図書グループ」	15 人
5/5	虹色エコ虫を探そう！	登録グループ「洛楽ガイド」	73 人

5/5	絵本の読み聞かせ	登録グループ「図書グループ」	27 人
5/6	虹色エコ虫を探そう！	登録グループ「洛楽ガイド」	107 人
5/18	家庭の省エネ相談所	ワーキンググループ「家庭の省エネ診断」	16 人
6/1	雑がみ分別ゲーム	登録グループ「イベントグループ」	56 人
6/7	家庭のごみ減量診断	ワーキンググループ「家庭のごみ診断」	30 人
6/8	家庭のごみ減量診断	ワーキンググループ「家庭のごみ診断」	22 人
6/14	家庭の省エネ相談所	ワーキンググループ「家庭の省エネ診断」	9 人
7/6	冷蔵庫からしなびた野菜が出てきたことはないですか？	ワーキンググループ「SAVE FOOD」	67 人
7/13	家庭の省エネ相談所	ワーキンググループ「家庭の省エネ診断」	13 人
7/30～31	夏休み絵本の読み聞かせ	登録グループ「図書グループ」	22 人
7/31	2025 エコセン☆夏休みワクワクひろば～リユース工作	登録グループ「イベントグループ」	40 人
8/1～5	夏休み絵本の読み聞かせ	登録グループ「図書グループ」	48 人
8/2～3	夏休み！エコドリル探検隊	登録グループ「洛楽ガイド」	106 人
8/8	家庭のごみ減量診断	ワーキンググループ「家庭のごみ減量診断」	33 人
8/9	2025 エコセン☆夏休みワクワクひろば エコマークでお買い物ゲーム	登録グループ「イベントグループ」	69 人
8/21	2025 エコセン☆夏休みワクワクひろば 「自然エネルギー発電体験＋燃料電池」	登録グループ「イベントグループ」	35 人
9/14	家庭の省エネ相談所	ワーキンググループ「家庭の省エネ診断」	17 人
10/5	親子で学ぶ「ちきゅまる」と食品ロスゼロ大作戦	ワーキンググループ「SAVE FOOD」	42 人
10/11	家庭の省エネ相談所	ワーキンググループ「家庭の省エネ診断」	16 人
10/26	アロマって？～植物の香りから知る生き物のふしぎ～	登録グループ「♪エコロジーカフェ♪の会」	8 人
12/14	家庭の省エネ相談所	ワーキンググループ「家庭の省エネ診断」	18 人
12/20	エコセン冬のワクワクひろば 家電の消費電力を測ろう！ ～クイズ&的当てゲーム～」①	登録グループ「イベントグループ」	24 人
12/21	太陽光発電の『マイ♡ランタン』を作ろう！	登録グループ「エコエネグループ」	13 人
1/10	家庭の省エネ診断	ワーキンググループ「家庭の省エネ診断」	16 人
1/12	エコセン冬のワクワクひろば エコマートでお買い物ゲーム②	登録グループ「イベントグループ」	117 人
2/22	家庭のごみ減量診断	ワーキンググループ「家庭のごみ減量診断」	26 人

◇ボランティアによる自主企画展示

開催期間	タイトル	実施グループ名
4/23～5/12	ボランティア推薦図書特別展示 子どもの読書週間絵本&POP 展	登録グループ 「図書グループ」
7/15～8/31	ボランティア推薦図書特別展示 絵本&POP 展	登録グループ 「図書グループ」
10/7～12/1	ボランティア推薦図書特別展示 読書週間 Book&POP 展	登録グループ 「図書グループ」
11/29～12/20	“ごみ” × “コミック” ゴミック展	ワーキンググループ ゴミック探究科

◇エコメイト養成講座

	開催日	タイトル	人数
第1回	1/24	京エコロジーセンター・ボランティア きほんのき	30 人
第2回	1/25～2/7	環境問題 きほんのき（オンデマンド講座）	29 人, 187 回 （視聴回数※）
第3回	2/8	展示・コミュニケーション きほんのき	26 人
第4回	2/14	実習オリエンテーション	12 人
	2/18		15 人
	2/15～3/7	実習期間	40 人
第5回	3/8	これまでの講座のふりかえり&登録説明会	27 人

※エコメイト養成講座参加者のみ視聴可能

（９） 環境保全活動に関わる人材の育成(1148)

環境保全活動に関わる人材の育成を目指した連続講座を行いました。

地域で自然エネルギー導入の実践を目指す方を対象に、「自然エネルギー学校・京都 2025」を実施しました。自然エネルギー導入の具体的な実践をよりイメージできるよう、参加者同士の交流や意見交換を重視し、参加者同士が相互に知見を深める機会となりました。

「環境活動パワーアップ講座 2025」は、今年度は大学生などの若者をターゲットに実施しました。活動のスタートアップに繋がる講座内容となるよう構成し、参加者は講師陣の講義やアドバイスを通して、各自の活動案の実現に必要な考え方やスキルを習得しました。講座終了後に実施したアンケートでは、参加者から、今後の環境活動のさらなる発展が期待される前向きな意見が多く寄せられました。

また、京都市教育委員会が実施する中学生の職場体験活動「生き方探求・チャレンジ体験」において、参加生徒および教育機関の環境保全活動に対する理解と意識の向上を目的として、京都市立桃山中学校の依頼を受け、11/4～11/7 の3日間、中学生2名を受け入れました。参加生徒にとって環境問題への関心をより高める機会となりました。

このほか、地域における環境保全活動の促進を目的に、環境ボランティアによる地域での活動を11件、地域人材の環境活動の支援として、環境学習イベントを3件実施しました。

◇自然エネルギー学校・京都 2025

～市民と地域が主役の自然エネルギー普及をめざして～

	開催日	タイトル	人数
第1回	7/5	気候変動問題と自然エネルギーの最新動向	112 人 (対面 14 人、録画動画 98 人)
第2回	8/2	ゼロカーボンな暮らしの実践ワークショップ	111 人 (対面 13 人、録画動画 98 人)
第3回	9/6	実践者から具体的に学ぶ！脱炭素アクション	112 人 (対面 14 人、録画動画 98 人)
第4回	10/11	ソーラーシェアリング見学会【特別養護老人ホーム 向陽苑】	109 人 (対面 11、録画動画 98)

◇環境活動パワーアップ講座 2025

	開催日	タイトル	人数
第1回	11/29	アイデアの種を蒔き、芽を出す	8 人
第2回	11/30	企画を育てる	8 人
第3回	12/6	飛び立つ準備	8 人

◇環境ボランティアによる地域での活動

開催日	実施場所・イベント名等	環境ボランティア 参加人数
5/3～4	梅小路公園「梅小路公園グリーンフェア 2025 春」	12 人
6/7～8	さすてな京都「あじさい大満喫 DAY」	18 人
8/2	竹間公園「竹間夏まつり」	1 人
8/3	新町小学校「中立ふれあい広場」	3 人
8/30	衣笠小学校「衣笠夏まつり」	1 人
9/28～29	京都府立植物園「きょうと☆いきものフェス！2025」	12 人
10/4～5	梅小路公園「梅小路公園グリーンフェア 2025 秋」	9 人
11/1～2	イオンモール KYOTO「超 ECO 祭り 2025」	8 人
11/8	正親小学校「エコキッズになろう」	2 人
11/23	深草小学校「第 17 回ふかくさ 100 円商店街」	2 人
12/7	大將軍小学校「エコと防災」	1 人

◇地域人材による環境教育活動

開催日	実施内容/参加者	参加人数
7/19	community Cafe&Deli hinolino 「カラダに、地球に、優しいめんつゆ作り」	9 人
7/30	京都精華学園高等学校自然科学部 「地球環境カードゲーム「マイアース」体験会」	32 人
11/1	立命館宇治高校 「廃棄ゼロクッキング～食品ロスゼロを目指して～」	15 人

(10) 国内外の他都市との連携(1149)

覚書の締結を通じ、国内外で活動する環境団体等との持続的な連携・交流を実施しています。また、実際に海外の環境問題や文化に触れられる企画を京エコロジーセンターにおいて実施することで、世界の環境問題の現状を来館者に伝え、および京エコロジーセンターの国際事業の理解促進につなげています。

◇海外とのMOU（了解覚書）およびMOC（協力覚書）締結に基づく交流

マレーシアのイスカンダル地域開発庁（IRDA）およびジョホールバル市議会（MBJB）との交流および支援活動

4/1にMOCを締結し、マレーシアの5都市（セガマト、メルシン、カピト、ビントウル、タワウ）を含む東南アジアにおいて環境学習施設を中心とした環境保全活動を推進するための支援活動を進めています。6月に、IRDAとMBJBの関係者とともに、5都市を訪問し、進捗活動の確認と必要に応じた支援活動を実施しました。その後も、主に、5都市の関係者からの要望に基づいてオンラインで研修を行いました。

モンゴル淡水資源・自然保護センターとの交流

5/1にMOUを締結し、技術交流を進めています。MOU締結後、オンラインにて京エコロジーセンターのプログラム開発や京都市における学校環境教育についての研修を行いました。また、同センターからの要望に基づき、気候ネットワークと協力し、継続して学校環境教育に対する支援を行っています。

韓国の環境団体との交流

2019年に韓国の環境団体である自然の友研究所とMOUを締結したことがきっかけで、10/24～26に第1回日韓環境教育ミーティングを京都で開催しました。日本の生徒との交流、シンポジウム、日本の環境教育現場の視察、といった3点を大きなテーマとし実施し、韓国からは、環境教育センター、自然の友、インチョン自然の友の3団体から計7名の代表が来日しました。

日本の生徒との交流では、京都精華学園の生徒と韓国の環境団体のそれぞれの日常の取組を紹介するとともに、双方の環境学習プログラムの実践を通して交流を深めました。

シンポジウムでは日本と韓国における環境教育の現状や課題について、事例発表やクロストークを通じた交流を行いました。シンポジウムの最後には、シンポジウム参加者である、環境教育センター、自然の友（※再締結）、インチョン自然の友の3団体と、それぞれMOUを締結しました。

日本の環境教育現場の視察では、フィールドソサイエティ協力の下、京都の森でのフィールドワーク体験、京エコロジーセンターとの職員交流などを行いました。職員交流では、環境教育に携わる職員の現場レベルでの意見交換も行うことができ、互いの技術交流だけでなく、環境教育の現場が抱える課題の共有なども行いました。

日付	実績内容	人数
5/13	モンゴル淡水資源・自然保護センター職員向け研修「京都市におけるこどもエコライフチャレンジについて」	8人 (オンライン)
6/2	モンゴル淡水資源・自然保護センター職員向け研修「京エコロジーセンターにおけるボランティアマネジメント」	2人 (オンライン)

	について」	
6/18	モンゴル淡水資源・自然保護センター職員向け研修「京エコロジーセンターにおけるゴミ減らし隊について」	2人 (オンライン)
6/8～21	マレーシア・イスカンダル地域開発庁とジョホールバル市との協力によるマレーシア5都市（メルシン、セガマト、カピト、ビントウル、タワウ）に対する環境保全活動推進支援	20人
8/5～6	マレーシア・イスカンダル地域開発庁とジョホールバル市との協力によるマレーシア5都市（メルシン、セガマト、カピト、ビントウル、タワウ）に対する環境保全活動推進のためのセミナー	17人 (オンライン)
10/17	マレーシア・ビントウル市環境関連部署およびマレーシアプトラ大学関係者に対する研修（テーマ：環境ボランティアの育成について）	10人 (オンライン)
10/24	韓国環境団体と京都精華学園中高生との環境学習に関する交流会	27人
10/25	日韓環境教育シンポジウムとともに歩む環境教育の持続的な貼ってと実践ー	28人
1/30	マレーシア・イスカンダル地域開発庁とジョホールバル市との協力によるマレーシア・ビントウルに対する環境学習施設開設支援	5人 (オンライン)
2/13	ベトナム・ホーチミン市環境 NPO 代表者に対するエコセンおよびエコ学区に係る研修	2人
3/6	マレーシア・イスカンダル地域開発庁とジョホールバル市との協力によるマレーシア・タワウに対する環境学習施設開設支援	4人 (オンライン)
3/11	マレーシア・イスカンダル地域開発庁とジョホールバル市との協力によるマレーシア・セガマトに対する環境学習施設開設支援	4人 (オンライン)

◇海外の環境問題や文化に触れられる展示や企画実施を通じた国際協力活動への理解促進

国際事業紹介コーナーによる国際協力活動への理解促進

京エコロジーセンターの経験を活かした海外での環境保全活動支援のための活動についてより知ってもらうことを目的に、国際事業紹介コーナーをリニューアルしました。パネルにより、マレーシアでの活動、Sudut Lestariと京エコロジーセンターの比較、京エコロジーセンターと海外の団体とのつながりなどを紹介しています。また、技術交流をしている韓国の団体やその交流の内容なども紹介しています。

京エコロジーセンターの国際協力活動への理解促進のためのイベント開催

国際的な環境問題や国際協力活動を広く知ってもらうためのイベントを定期的を開催することとし、その初回として、JICA草の根技術協力事業でも関わりの深いマレーシアをテーマに第1回異文化探究イベントを2/14に開催しました。

◇イベント（再掲）

開催日	タイトル	講師	参加人数
8/30	メキシコの伝統工芸品【アレブリヘ】を作ろう！	ガブリエラ、アイリィン、カティア、ヤイディ※JICA 研修員（京都工芸繊維大学）	11 人
10/24～ 26	第1回日韓環境教育ミーティング	チェ・スンヒ氏、オ・チャンギル氏、キム・ウンジュ氏、マ・ウンヒ氏、イム・スジョン氏、パク・ウンジ氏、キム・ルッ氏、久山 喜久雄氏他	17 人
2/14	第1回異文化探究イベント（マレーシア）	マルハ・ザヒヤ氏（マレーシア人留学生）	9 人

◇海外からの団体見学受入実績（団体見学の内数）

日付	団体名	人数
4/22	慶尚南道教育庁（キョンサンナムト）（韓国）	30 人
4/22	中国 NGO 協力協会（Cando）	8 人
5/2	CIEE 京都	38 人
5/24	CIEE 京都	23 人
5/31	AIC international School	12 人
6/24	AISG（American International School of Guangzhou、広州アメリカンインターナショナルスクール）	22 人
7/9	上海築橋実験小学校	40 人
7/9	住友財団「JARE 2025（日本関連研究プロジェクト）」訪問研究者	4 人
7/29	ソウル工業高等学校	14 人
8/25	ペトロナス大学（マレーシア）	23 人
9/16	JTALK	9 人
9/17	マレーシアジョホール州自治体一行	20 人
9/19	韓国ヨンチョン郡の職員	4 人
9/24	日本環境衛生センター受託 JICA 課題別研修	8 人
10/15	金星（クムソン）中学校	23 人
10/17	ELJP251014033（フィリピンのインバウンド団体）	19 人
12/1	シンガポール工科大学/Singapore University of Technology and Design（SUTD）	10 人
12/5	統一研究院	2 人
1/28	COLATOUR（台湾）	11 人
1/28	日本環境衛生センター（2025年度 JICA 国別研修「ブラジル・海洋ごみ対策のための廃棄物管理」本邦研修）	16 人

1/30	太平洋人材センター	22 人
------	-----------	------

◇国内の他団体との覚書締結

大阪府吹田市の資源リサイクルセンター「くるくるプラザ」の運営をしている公益財団法人千里リサイクルプラザと、10/1に「関西における環境教育・学習及び啓発施設を運営する団体の連携に関する覚書」を締結し、今後連携事業を行うなど交流を深めました。

(11) 大学生の環境活動支援(1150)

本年度も大学生インターンを3名受け入れました。エコセンでのインターン活動を通して、ボランティアを対象とした研修の実施、大学生を対象としたイベントの実施等、それぞれの目的達成に向け活動を実施しました。

また、大学生の環境活動支援を通じて、多様な連携や発信の場を設けました。大学生への環境活動支援として、アンケート調査やヒアリングへの協力など10件の支援を実施しました。龍谷大学との連携では「未来を繋ぐGreen Tomorrow Café (GTC)」を通じて、環境関連の活動を行う複数の大学の学生団体との交流を行い、それぞれの活動内容への理解を深めるとともに、ネットワークの構築・強化に繋がるよう支援を行いました。

新たな取り組みとして、学生が環境問題への関心を深め、持続可能な暮らしについて楽しく体験しながら学ぶことを目的に、大学生向けの短期講座として「学生のための1DAYエコ体験講座」を実施しました。本イベントを通して、参加者が環境問題への意識を持つだけでなく、自らの生活や消費行動を見直すきっかけを提供することができました。

京都文教大学、京都外国語大学からの依頼を受け短期インターンの受入に関する協定を結びましたが、今年度の受入はありませんでした。

◇インターンの活動件数

月	日数	延べ人数
7月	10日	14人
8月	12日	17人
9月	10日	13人
10月	14日	17人
11月	12日	16人
12月	11日	17人

◇大学生への情報発信

開催日	実施場所・イベント名等	人数
5/26～27	京都産業大学「ソーシャルさんかく EXPO 2025」	52人
11/13	京都産業大学「『2025 秋ソーシャルさんかく EXPO』	14人

◇大学生への環境活動支援

(相談対応)

日時	実施内容/参加者	人数
6/12	京都外国語大学 卒論に関するヒアリング	1人
6/25	京都教育大学 留学生相談（『ときめき取材記』という本	2人

	プロジェクトに関するヒアリング)	
9/7	放送大学教養学部 アンケート調査への協力	1人
9月～10月	京都大学大学院 環境ボランティアへのインタビュー調査の協力	1人
9月～10月	京都大学大学院 環境問題に興味のある市民を対象としたアンケート調査の協力	1人
10/29	京都外国語大学 授業での課題に関するヒアリング	4人
12月	龍谷大学 アンケート調査への協力（ボランティアと事務局との活動への認識に関する）	1人
2/2	立命館大学 インタビューへの協力（協会の活動や理念、特にSDGsに関する取り組み）	2人
2/28	龍谷大学大学院 アンケート調査の協力（社会教育施設における活動実態に関する）	1人
3/11	上智大学 調査への協力（京都市内の再生可能エネルギーに係る活動に関する）	1人

（イベント）再掲

日時	実施場所・イベント名等	人数
11/2	京都光華女子大学タバラボ・株式会社カラー 「衣服のアップサイクルワークショップ」	22人
12/16	京エコロジーセンター インターン企画 「ほしぞらカフェ ～灯りがつなぐ人と地球～」	6人
2/10	京エコロジーセンター「未来を繋ぐGreenTomorrowCafe」	21人

（ボランティア研修）再掲

11/29	ボランティア研修（臨時） （インターン企画）「エコセン・秋のホンネ収穫祭」	11人
-------	--	-----

◇大学生向け講座

日時	実施場所・イベント名等	人数
12/14	Zero Waste Kyoto「学生のための1DAYエコ体験講座」	2人

（12）アウトリーチ（センター外での実施）（1151）

◇巡回展示・移動展示ユニット貸出し

開催日	実施場所
3/3～4/20	東京練馬区立四季の香ローズガーデン
5/28～7/2	京都市伏見区役所醍醐支所
10/26	洛和メディカル
12/15～1/31	イズミヤショッピングセンター白梅町

◇出前講座

開催日	実施場所	人数
-----	------	----

6/12	西大路小学校	29 人
7/4	桃陽総合支援学校	5 人

◇館外における講座

開催日	実施場所・講座名	人数
5/31	京都教育大学環境教育実践センター「里山たいけん隊」①	31 人
6/21	深泥池「里山たいけん隊」②	32 人
7/26	京都市動物園「里山たいけん隊」③	28 人
7/30	京都教育大学環境教育実践センター 稲の観察会	2 人
8/19	京都教育大学環境教育実践センター 稲の観察会	2 人
9/27	京都教育大学環境教育実践センター「里山たいけん隊」④	30 人
10/25	雲ヶ畑の足谷小屋周辺、元雲ヶ畑小中学校「里山たいけん隊」⑤	34 人
12/14	Zero Waste Kyoto 「学生のための 1 DAY エコ体験講座」	2 人

◇情報発信

開催日	実施場所・イベント名等	人数
5/3～4	梅小路公園「梅小路公園グリーンフェア 2025 春」	294 人
5/26～27	京都産業大学「ソーシャルさんかく EXPO 2025」	52 人
6/14～15	岡崎公園「アースデイ in 京都 2025」	—
9/27～28	京都府立植物園「きょうと☆いきものフェス！2025」	654 人
10/4～5	梅小路公園「梅小路公園グリーンフェ 2025 秋」	38 人
11/1～2	イオンモール KYOTO「超 ECO 祭り 2025」	177 人
11/8～9	京都市青少年科学センター、京エコロジーセンター「科学の祭典」	463 人
11/13	京都産業大学「2025 秋ソーシャルさんかく EXPO」	14 人
11/23	深草小学校「第 17 回ふさくさ 100 円商店街」	251 人
11/24	北区総合庁舎「北区エコフェスタ」	170 人

※6/14～6/15 岡崎公園「アースデイ in 京都 2025」の開催は雨天の影響により中止

◇その他

開催日	実施場所・講座名	人数
7/25	キャンパスプラザ京都「京都消費者教育シンポジウム 2025」	70 人
11/26	深草支所「深草ふれあいランド」	35 人
2/7	深草小学校～炭から墨まで“ふしぎ”発見！～深草の竹炭墨汁づくり	29 人

(13) 伏見区役所深草支所との連携強化

地域に開かれた身近な「京エコロジーセンター」として、来館者を増やすとともに、地域特性を生かした事業連携を進めるため、今年度は、子どもはぐくみ室との連携事業を新たに実施するなど伏見区役所深草支所と連携した取組を強化しました。

◇地域力推進室関連（再掲）

種別	期間等	タイトル	人数
企画展	3/28～5/7	謎解きダンボール迷路（第 2 弾）	—

企画展	11/21～12/27	都っとなを使ったクリスマス装飾	—
イベント	12/7	竹でつくろう！クリスマス飾り	26 人
イベント	12/21	農薬を使っていないから安心！バラのバスソルトづくり	45 人
イベント	2/7	～炭から墨まで“ふしぎ”発見！～ 深草の竹炭墨汁づくり	29 人

◇子どもはぐくみ室関連（再掲）

種別	期間等	タイトル	人数
イベント	11/2	多文化交流エコ工作ハロウィン 2025	26 人
外部出展	11/26	深草支所「深草ふれあいランド」	35 人
イベント	12/6	四季のエコアートラボ 「親子であそんで五感で学ぶ自然のひろば “秋の‘1 ページ絵本’づくり”	23 人

2 さすてな京都運営業務(2101) ※京都市委託事業

当協会と2社による連合体「さすてな京都運営コンソーシアム」として実施しました。

1/14に南部クリーンセンターで発生した火災の影響により、1/16～4/1は臨時休館しており、令和6年度施設利用者数（61,108人）を下回りました。

	施設利用者数	前年比
令和7年度	49,650人	81%

(1) 3施設連携事業

京都市青少年科学センター・京エコロジーセンター・さすてな京都をつなぐシャトルバスを運行し、伏見区環境学習拠点3施設の連携として以下を実施しました。

期間	名 称	内 容
12月～1月	「伝統産業・伝統工芸」をテーマにしたイベントの開催 ※（公財）京都伝統産業交流センターとの共催	①京エコロジーセンター ・ハンカチ絞り染め体験（1/25） ②京都市青少年科学センター ・型友禅制作体験（12/20） ③さすてな京都 ・金箔押し体験（12/14）、京こま制作体験（12/20）
2/1	科博連サイエンスフェスティバル	京エコロジーセンター及び青少年科学センターが会場。科博連（京都市科学系博物館等連絡協議会）構成メンバー（さすてな京都も含む）がブース出展。

(2) 「さすてな京都☆アジサイフェア 2025」

南部クリーンセンター内の「アジサイ小径」沿いに、色とりどりの1万株のアジサイが咲き誇り、6/7・8の2日間は、アジサイ小径に加え、一部の車道を開放し、南部クリーンセンター内を自由に散策できる「1万株のアジサイ大満喫DAY」を開催しました。

期間	名 称	内 容
6/7・8	1万株のアジサイ 大満喫DAY 全体	7日来場者数1,862名 8日来場者数2,729名 合計4,591名

◇6月7・8日 1万株のアジサイ大満喫DAY 関連企画

名 称	内 容
学習プログラム	自然共生サイト認定記念プログラム オリジナルアジサイ「塗り絵」 ◇参加者450組634名 いきのもや植物の缶バッチづくり ◇参加者165組200名 工場見学&（アジサイ、ビオトープ）解説ツアー ◇参加者105名 気泡緩衝材「プチプチ」を使ったペットボトルホルダー作り ◇参加者183組300名 ※川上産業（株） 京都フォントを使用した缶バッチづくり※タカラサプライコミュニケーションズ（株）
屋外展示	はたらく車（パッカー車ほか）、水素カー ※京都市 デロリアン※JEPLAN 輸入EV車（オーディーほか）※【協力】一般社団法人日本自動車販売協会連合会京都府支部輸入車部会 マツシマHD 京都市上下水道局、京都市消防局、横大路学園、南部資源リサイクルセンター、タカラサプライコミュニケーションズ

（３）開館6周年特別プログラム

期間	名称	人数
11/9	昆虫好きのみんな集まれ！ 片田陽依さんと話す 「昆虫の魅力、愛らしさ、素晴らしさ」	89人
11/22	落語家さんと「紙切り芸」を楽しんで、「紙」の魅力と歴史にくわしくなろう！	22人
11/24	ごみ収集車好き集まれ！ 「ごみかるた」を描いた本田しずまるさんと一緒に、ごみ収集車のお絵描き&ごみ積込体験！	38人
12/21	世界で誰ひとり行ったことがない洞窟。 その最奥で見つけたもの。～洞窟探検家・吉田勝次さんの「クレイジー」な地球冒険記録！～	133人
1/11	『ゴミ屑と花』上映会&スペシャルトークライブ	80人
7/19～ 1/12	企画展示『カレー爆発！？ごみ清掃員をすくえ！ マシンガンズ滝沢秀一「ごみかるた展」	—

【２】国際事業

国際事業（調査、案件形成等）（1205）

- （１） JICA草の根技術協力事業 ベトナム社会主義共和国「コミュニティベースのごみ減量と分別の仕組み構築支援事業」申請

ベトナム・フエ市では、2025年1月から家庭におけるごみ分別が義務化され、環境インフラ整備が進められています。しかし、法律の認知・実施率は低く、家庭で分別されたごみも回収段階で混合処理されるなど制度と実態に乖離があります。市内の焼却場には毎日処理能力を超えるごみが搬入されている他、郊外の一部地域では埋立処理が続き、周辺地域では悪臭や水源汚染が深刻化しています。また路上や空き地、河川等への不法投棄も常態化しており、雨季の洪水時に下流域へ流出するなど広域的な環境被害を招いています。

これらを踏まえ、京都市環境保全活動推進協会のごみ減量推進会議によるコミュニティベースのごみ減量の経験などを活用して、行政・市民・事業者の協働によるコミュニティベースのごみの減量と分別の仕組みを構築し、フエ市内の他地域や他都市の模範となりうるモデルを確立するため、京都市とともに草の根技術協力事業に新規事業の申請を行いました。2026年3月26日にJICAから、この申請が採択されたとの通知を受けました。

2026年度から契約に向けた準備（活動内容および予算の改善、契約交渉など）を開始し、2027年度中の事業開始を目指します。

（２） 外務省NGO連携無償資金協力 マレーシア「住民主体のごみの減量化および適切な処理の仕組み構築事業」申請

ボルネオ島のサラワク州カピト地区は、都市部への人口集中や生活様式の変化に伴い一般廃棄物量が急激に増加する一方で、衛生管理が施された埋め立て処分場がなく、行政の廃棄物処理体制も不十分です。また、廃棄物はほとんど分別されておらず、リサイクル可能なものも含めた廃棄物が処分場に運ばれているため、処分場の容量超過が間近に迫っています。加えて、河川や山間部では不法投棄が多発し、埋め立て処分場周辺や村の生活環境が悪化しています。

そこで、村単位でのごみの減量・分別の仕組みを構築し、さらに環境学習施設を活用した住民への環境意識の啓発活動を行うことで、地区全体へ、その仕組みの普及を図り、生活環境の改善促進を目指すため、NGO連携無償資金協力で新規事業の申請を行いましたが、2025年12月に不採択（主な不採択理由：事業実施による日本への裨益について述べられていなかったため）との結果を受けました。

外務省によると、事業計画の内容自体は問題なかったとのことでしたので、不採択だった要因を改善し、2026年度に再申請することにしました。

【３】 地域環境活動支援事業

１ 「エコ学区」ステップアップ事業に係る学習会等支援事業(1301)

※京都市委託事業

京エコロジーセンターに「エコ学区サポートセンター」を開設し（平日9時～17時）、地域ぐるみのエコ活動についてのワンストップサービスの相談窓口として対応しました。エコ学区として宣言した222学区及び、学区以外のコミュニティ（自治会、ボランティア団体及び大学サークル等）に対し、エコ活動の現場取材、地域へ直接アプローチを行うなど、地域ぐるみのエコ活動を促進しました。

(1) 学習会

学区と学区以外のコミュニティを対象に公募し、「2050年CO₂ゼロ どこでもトーク」を実施しました。(全30件：学区14件・他団体16件)。

どこでもトークの支援上限に達した後に学区、一般団体から学習会の実施相談に対応するため、エコセンの館外事業への誘導や他団体の講師への引き継ぎ対応を行いました。

◇学習会実施一覧

日程	タイトル	講師	学区/団体	人数
7/8	古着の回収と地域内循環の仕組み	岩崎仁志 氏 (株式会社 ヒューマンフォーラム)	京都市立久世西小学校 PTA	23 人
7/25	伝統産業とサステナビリティ	堤卓也氏、スワローまゆ氏 (株式会社堤浅吉漆店)	京都橘大学国際英語学部早川ゼミ	14 人
7/26	「砂川夏祭り」ブース出展	エコ学区サポートセンター	砂川夏祭り実行委員会	171 人
8/2	「竹間夏まつり」ブース出展	エコ学区サポートセンター	竹間自治連合会	148 人
8/2	「中立ふれあい広場」ブース出展	エコ学区サポートセンター	中立住民福祉協議会	430 人
8/6	地球温暖化とエネルギーのお話	木原浩貴氏 (たんたんエナジー 株式会社)	御所の杜学童クラブ	70 人
8/19	エコキッズになろう	山植剛氏 (エコ学区サポートセンター)	京都市祥豊児童館	84 人
8/22	古着の回収と地域内循環の仕組み	野村佳祐氏 (株式会社 ヒューマンフォーラム)	一般社団法人はぐくみ共同体 nalba	19 人
8/25	花背の森から描く地球の未来予想図	伊勢武史氏 (京都大学 フィールド科学教育研究センター 准教授)	林業女子会@京都花背支部、花背文化講	33 人
8/30	「衣笠夏まつり」ブース出展	エコ学区サポートセンター	衣笠夏まつり実行委員会	76 人
9/7	おいしい地球の未来をつくる	玉木千佐代氏 (合同会社 KYOTOVEGAN)	小川学区地域女性会	19 人
9/11	古着の回収と地域内循環の仕組み	野村佳祐氏 (株式会社 ヒューマンフォーラム)	京都市立御所南小学校 6 年	149 人
9/16	生ごみから美味しい野菜をつくるコンポスト	橋本由佳氏、中田俊氏 (ごみカフェ KYOTO)	京都市立葵小学校	22 人
10/4	「子どもたちのエコな未来」って？	山植剛氏 (エコ学区サポートセンター)	下京区「はぐくみ」ネットワーク実行委員会	11 人
10/8	科学者の描く未来予想図	伊勢武史氏 (京都大学 フィールド科学教育研究センター 准教授)	京都市立西京高等学校附属中学校	21 人
10/15	夏涼しく冬暖かい！窓の遮熱・断熱を知ろう	山見拓氏 (有限会社 ひのでやエコライフ研究所)	小野郷移住促進委員会	29 人

10/18	生ごみから美味しい野菜をつくるコンポスト	中田俊氏（ごみカフェ KYOTO）	梅屋自治連合協議会	20 人
10/18	コーヒーかすがキノコに変身？循環型栽培をめざして	倉橋大希氏（RE:ARTH）	高松橋ひろばづくりの会	13 人
10/19	「エコ防災」学習会	エコ学区サポートセンター	羽束師自主防災会	116 人
10/29	古着の回収と地域内循環の仕組み	岩崎仁志氏（株式会社 ヒューマンフォーラム）	京都市南老人福祉センター	10 人
11/8	「エコキッズになろう」ブース出展	エコ学区サポートセンター	京都市立正親小学校 PTA	110 人
11/10	寺域防災ロケットストーブ・ワークショップ	北川完二氏、高橋清司氏、石原智司氏 （上鳥羽エコまちくらぶ）	立誠自主防災会・誓願寺・新京極商店街振興組合環境整備委員会	15 人
11/11	伝統産業とサステナビリティ	スワロー まゆ 氏 （株式会社 堤浅吉漆店）	京都生協 北ブロック	12 人
11/15	コーヒーかすがキノコに変身？循環型栽培をめざして	倉橋大希氏（RE:ARTH）	京都市立近衛中学校 PTA	16 人
12/6	「エコ×防災」学習会	北川完二氏（京都市上鳥羽北部いきいき市民活動センター）	右京区役所	93 人
12/7	「エコと防災」ブース出展	エコ学区サポートセンター	大將軍社会福祉協議会	72 人
12/26	カードゲーム「CHANGE FOR THE BLUE」	岡崎真弓氏（CHANGE FOR THE BLUE カードゲーム公認ファシリテーター）	京都 YWCA 親・子育て支援活動委員会	22 人
1/18	「滋野学区新春もちつき大会」ブース出展	エコ学区サポートセンター	滋野少年補導委員会	132 人
2/20	生ごみから美味しい野菜をつくるコンポスト	橋本 由佳氏（ごみカフェ KYOTO）	南 京都市大薮小学校 PTA	12 人
3/15	科学者と想像をめぐる私たちの 2050 年	伊勢 武史氏（京都大学 フィールド科学教育研究センター 准教授）	全市 京都友の会	32 人
合計				1,999 人

（２）エコ学区等への活動支援

自発的にエコ活動に取り組んでいるエコ学区（桃山・豊園・中立・竹間・上鳥羽・上高野等）を中心に、学区内でエコ活動を掲示できるパネル製作（6枚）など、地域性を活かした独自のエコ活動が行われました。また、令和 7 年度の京都環境賞についての趣旨説明を行い、複数の学区が応募された結果、エコ学区活動内容が評価され、エコ学区賞 1 団体（中立エコ生活推進会議）、奨励賞 1 団体（桃山エコ推進委員会）が表彰されました。

団体や個人のエコ活動の支援や相談対応、情報提供を行い、各団体同士のマッチング、講師派遣、取材広報協力、物品貸出など211件の案件に対応しました。

児童館や小学校、中学校、高校などで積極的なエコ活動や環境に関する探究学習をしている子どもたちに対して、地域へのマッチングや発表内容へのアドバイスなどをしました。

エコイベントへのアドバイスやイベントのエコ化についての相談に対して、京都市やエコまちステーションとの調整、イベントの実行委員会の取りまとめなどのサポートを行いました。これにより、エコ学区以外の団体との信頼関係や学区のイベント以外に参加する一般市民への環境啓発が実施することができました。また、これらのイベントに企業やエコ学区や大学生のエコ活動のパネル展示などを実施して、イベント自体がエコの見本市になるような仕組み作りを行いました。

2 京都発脱炭素ライフスタイル推進に係るプロジェクト創出及び実証支援等業務 ※京都市委託事業

(1) 企業等連携によるプロジェクトの創出及び実証支援事業(1304)

京都発脱炭素ライフスタイルのビジョンに基づき、市民・事業者・コミュニティ等と連携し、市民のライフスタイルをより温室効果ガスの排出が少ないものに転換していくための仕掛け（プロジェクト）を創出及び実証しました。（全17件）

令和7年度は、6プロジェクトを創出支援しました。

1. 修理系プロジェクト 2. 断熱性能を体験できる場づくり（京都工学院高校）
3. 賃貸住宅紹介時の省エネ・再エネ性能の見える化 4. スーパーの食品トレイをリユースしよう 5. ホテルを起点とした持って帰るごみ袋～観光ダストバック～
6. アースデイin京都での取組啓発

また、5プロジェクトの実証支援期間が終了しました。

1. 四条通をサステナブルのシンボルへ 2. 食対応のメニューを提供する店舗の見える化 3. 環境負荷の見える化プロジェクト 4. 環境配慮型農業の実践 5. 公園を活用したサーキュラーエコノミープロジェクト

各プロジェクトのこれまでの成果をとりまとめ、発信しています。

京都アーバンファームでは、プロジェクトの中で参加者同士のコミュニティづくりが行われるなど、活動団体同士の横のつながりや連携が広がりました。

◇成果の発信等

- 使用済衣服に関するCO2削減量は、①使用済衣服の廃棄に係るCO2の削減量、
②新規衣服の製造に係るCO2の削減量（1着0.25kgとして計算）の合計

開催日	概要	名称（場所）	備考
11/2	京創ミーティング・プロジェクトの成果発信と使用済衣服回収	¥0 マーケット in エコセン	CO2 削減量 6,707 (kg-CO2)
11/3	京創ミーティング・プロジェクトの成果発信と使用済衣服回収	¥0 マーケット in エコセン	CO2 削減量 5,202 (kg-CO2)
11/24	京創ミーティング・プロジェクトの成果発信と使用済衣服回収・¥0 マーケット	北区エコイベント（北区役所）	CO2 削減量 11,908 (kg-CO2)

2月	京創ミーティング・プロジェクトの 成果発信	京都市役所地下通路 展示スペース	—
2/13- 14	京創ミーティング・プロジェクトの 成果発信と使用済衣服回収	京都マラソンおこしやす 広場（みやこめっせ）	CO2 削減量 73 (kg-CO2)

（２） 環境探究プログラムの開発(1311)

次世代を担う高校生を中心に、環境問題を自らの身近な問題として捉え、その背景にある要因を深く分析し、主体的に課題解決策を考察する力を育むことを目指し、「環境」を題材とした「探究学習の基礎を学ぶ」コンテンツを開発しました。

新たに改訂した京都市環境副読本中学生版とも接続し、京創プラットフォーム参画団体と共に、探究学習を応援するツールとして、令和８年度以降活用を目指します。

3 住宅の再エネ地産地消・地域循環推進事業(1307) ※京都市委託事業

市民の家庭での太陽光発電設備で生み出される環境価値（CO2 削減量）を取りまとめ、国のＪークレジット制度を利用してクレジット化したうえで企業等に売却し、その収益を市内加盟店で利用できる地域ポイントとして各家庭に還元する事業を実施しました。

令和６年度分はCO2 削減量 625t-CO2 をクレジット化し、４社に購入（3,317 千円）していただきました。

入会者数は、令和４年度の事業開始時からの累計で1,000 名を超え、太陽光発電と蓄電池（V2H 含む）の同時設置者への導入支援ポイントは、令和６年度とほぼ同程度の197 名に付与し、既存の太陽光発電に蓄電池 V2H 含む）を追加設置した方は、令和６年度から大幅に増加し56 名に導入支援ポイントを付与しました。

4 京都 0 円ソーラープラットフォーム

（１） 住宅向け 0 円ソーラー(1503) ※京都府委託事業

（２） 太陽光発電プラットフォーム事業(1504) ※京都市委託事業

引き続き、京都府と京都市が共通のプラットフォームとして設置している「京都 0 円ソーラープラットフォーム」の運営を通じ、初期費用ゼロで太陽光発電設備を導入する「0 円ソーラー」を多くの方に安心して利用してもらうための取組を実施しました。なお、一般的に「PPA」と呼ばれるこの仕組みも民間事業者の営業等により一定の広がりがみられ、令和７年度のプラットフォームを通じた見積件数や成約数は減少しています。

5 環境教育・学習推進業務(1306) ※京都市委託事業

京都市の環境教育・学習推進上の課題を抽出するとともに、論点を整理したうえで、今後、より効果的・効率的に取組を進めるための方針（事業の最適化及び充実）の検討及び京都市環境教育・学習基本指針改定の必要性の検討を行いました。

この中で、京都市民 1000 名を対象に、京都市民の環境行動の実態や環境学習の効果等を明らかにすることを目的としたアンケート調査を実施しました。

6 ごみ減量推進事業 ※京都市委託事業

(1) 普及啓発(1621)

ア 情報誌「こごみ日和」4回発行(104～107号)

万博での資源循環、海外での最新ごみ事情など視野を広げる情報の提供や、事業系廃棄物を扱う市の窓口(環境共生センター)、京都中央信金、GOOD NATURE HOTEL KYOTO、生物多様性センターなど会員や市民の身近な取組を幅広く取り上げました。また、表紙は嵯峨美術大学の学生に向けコンペを行い、80作品以上の応募から4作品を投票で選びました。市民(特に若年層)の目を惹く表紙になり、内容とのギャップも好評でした。

イ ごみ減量啓発イベント

市めぐるくん推進友の会との協働で、人気が衰えないさをり織り体験を通して衣服ロスの現状を伝えるほか、エコまちステーション主催の衣服ロス啓発イベント等で、繊維の水平リサイクルやアップサイクルの啓発など15のイベントに出展しました。

ウ ごみ減量実践講座の開催

企業向け(サーキュラー思考セミナー、島津製作所の施設見学)、市民向け(紙漉きワークショップほか)、こども向け(児童館向けハイザイアートワークショップほか)など24回の講座を実施しました。

エ 広報活動

会員の活動や京都市ごみ減量推進会議の取組を知ってもらう機会として、積極的に取材等に対応。都市緑化協会「京のみどり 115号」、廃棄物資源循環学会「循環とくらし 13号」、経産省東北産業局「調査報告書」、しみセン情報誌「hotpot83号」、RadioMixKyoto出演など多くの機会をいただきました。また、エコセン館内やイズミヤショッピングセンター白梅町でのパネル展示など、エコセン事業とも連携し啓発を進めています。

週1回を目途に発信するメルマガ登録数は、約1,100アドレスとなりました。

(2) ごみ減量事業化(1622)

ア 再生紙推進(めぐレット)事業

コロナ禍で停滞していた市立学校での学乳パックの回収は、3学期に約半数のリサイクルルートが再開。新年度から全校回収に向け各所との調整を進めました。

イ 堆肥化事業

生ごみコンポストの取組では、単年の取組支援に加え、これまでの5年間の参加者へのアンケート調査を行いました。また、北区役所からの依頼で生ごみコンポスト講座を実施し、約60名に取組支援を行いました。

落ち葉の堆肥化では資源循環の啓発を行うとともに、堆肥化作業が軽減できる資材「タヒロンガーデンバッグ」を紹介・斡旋しました。

ウ 端材活用事業

事業者等から提供された端材を、こどもの創作あそびに活用するための協力・支援を行いました。提供された素材はこども向け講座等で児童館向けのハイザイアートワークショップ(16回開催)で活用するほか、各種イベント等でも活用されています。

(3) 地域活動(1623)

ア 行政区単位での地域ごみ減量推進会議総会及び活動支援

各行政区のイベント等において、地域ごみ減の参加を市エコまちステーション等と協働で支援しました。区単位の地域ごみ減が主体として実施する「2026左京ふれあいecoフェスタ」(古着や陶器の交換会、クイズアンケート等)、「第10回エ〜コと伏見2026」(各地域ごみ減の取組をワークショップ等で出展)のほか、各地域のイベント、清掃活動や資源物回収の案内など、地域でのごみ減量啓発が自主的に行われました。

イ 新規地域ごみ減立上げ支援

右京区	南太秦地域ごみ減量推進会議	7月入会
北区	衣笠ぐるりんパ地域ごみ減量推進会議	3月入会

※ 令和8年3月末現在、202団体設立(222学区内、195学区設立)

(4) 2R型エコタウン構築事業(1624)

ア 2Rひとつづくり事業

NPO法人環境市民との協働で4年目となる「お店のプラスチック調査」を進めました。今年度は、大学への出講に力を入れ学生約600人のアンケートを集めました。年度末に、スーパーマーケット事業者と市民に呼び掛けて懇談会の場を設け、調査の報告と意見交換を行いました。

イ 2R文化発信事業

京都市内スーパーマーケット環境調査を呼びかけると共に主に左京区を中心に調査を行いました。全国調査の内容と共に、ウェブ等で調査結果を発信しました。

ウ 2Rサービス紹介事業

修理店、リユース店を紹介するウェブサイト「もっぺん」の啓発では、イベント出展のほか、京都ポルタでの衣服回収イベント等で啓発ポスターを掲示いただくことができました。新規登録店舗が3店舗増え、210店舗となりました。

【4】講師派遣事業

講師派遣・講座の企画実施(セミナー・研修・イベント等)(1401)

依頼のあった行事等に職員を派遣し、講演や事例発表を行う他、依頼元の要望にあわせた企画実施などを行いました。

実施日	派遣事業名	主催
4～6月の全6回	伏見まちづくりプロジェクト	龍谷大学
6/11	京都ライオンズクラブ通常例会	京都ライオンズクラブ
7/24	JICA 草の根技術協力事業「ASEANのモデルとなる低炭素社会実現に向けた人材育成とネットワーク拠点の機能強化プロジェクト」	JICA 関西
8/23	JICA 国別研修「コートジボワール国大アビジャン圏における持続可能な廃棄物管理の計画策定及び改善プロジェクト」	JICA
9/24	JICA 課題別研修「海洋ごみ対策のための廃棄物管理」	日本環境衛生センター

10/14	ブラジル技術ミッション	LAVORO
10～12月 の全6回	京都先端科学大学附属高校 探究プログラム	ESD 活動支援センター
10～3月 の全5回	北区制 70 周年事業「はじめてのコンポストづくり」	北区役所
1/28	JICA ブラジル国別研修「海洋ごみ対策のための廃棄物管理」	日本環境衛生センター
2/8	東梅逕学区学習会	東梅逕ごみ減量推進会議
2/13・14	日越郊外・環境問題に関する研修プログラム	あおぞら財団
2/19	上鳥羽学区学習会	上鳥羽地域ごみ減量推進会議
3/20	資源循環について考えるセミナー	環境保全ネットワーク京都

【5】調査・研究・開発・発信事業

1 脱炭素先行地域・グリーン人材育成支援事業(1310) ※自主事業

京都市では、環境省が進める「脱炭素先行地域」の選定を受け、伏見エリアを中心に、地域コミュニティの核である文化遺産、商店街、住まい等において、脱炭素が、地域コミュニティの活性など、地域課題の解決にも結び付く地域脱炭素モデルの創出に向けた取り組みを進めています。

当センターは、市内大学とともにグリーン人材育成拠点に指定されており、当協会は京都市が設置する「グリーン人材育成WG」の一員として、京都市脱炭素先行地域WGのフィールドを見学し、学生・地域企業に勤める社会人等が WG メンバー等との対話や各テーマに関連する体験から学び、脱炭素アクションを実践して各取組を広げる人材の育成を検討しています。

令和7年度は、文化遺産の脱炭素化WGメンバーで、寺社施設の関係者が立ち上げた新電力事業者 TERA Energy 株式会社と連携し、寺社における先進的な再エネ導入事例の見学や、寺社を舞台とした体験を通して自身の暮らし方を見つめ直すプログラムを企画しました。（令和8年度以降に実施）

2 バイオマス有効活用推進事業(1514) ※自主事業

バイオマス有効活用推進事業の第1弾として、炭を燃やさずに生活に取り入れることで、暮らしを豊かにし、脱炭素にも繋がるライフスタイルを提案する「炭から始める気候アクション（略称：スミカラ）」を立ち上げました。具体的には、5つのワークショップを企画立案、試行実施、ブラッシュアップを行う一方、スミカラのWebサイトの制作及びスミカラを紹介するプレゼン資料を作成し、12社にスミカラへの支援を依頼しましたが、今年度は協賛企業獲得には至りませんでした。

開催日	ワークショップ名	開催場所	人数
5/25	竹炭で墨汁づくり	京エコロジーセンター	21人
6/15	竹炭を使ってコンポストを作ってみよう！	京エコロジーセンター	10人
7/13	炭盆栽づくり	京エコロジーセンター	17人
8/2	竹炭コースターづくり	京エコロジーセンター	10人
8/24	花炭づくり	京エコロジーセンター	16人
2/7	深草の竹で墨汁づくり	深草小学校	29人

3 きょうと環境活動応援事業(1521) ※自主事業

同志社大学小谷ゼミと連携し、消防団フェスタにおいて、廃棄消防ホースで作ったプラ
ンター100個を来場者に配布するとともに環境に配慮した活動の啓発を行いました。

4 ごみ減量推進事業 会費等を活用した自主事業(1625) ※自主事業

2026 年 11 月に迎える 30 周年に向け、記念事業について検討する会議を 3 回実施しま
した。

5 京のアジェンダ 21 フォーラム事業 ※自主事業

(1) 観光のエコ化の推進(1704)

昨年度に引き続き、祇園祭ごみゼロ大作戦の中で、祇園祭山鉦の駒形提灯の電源として、
再エネ由来の電力契約を行っている近隣の 6 店舗で充電したポータブル電源を使用する
取組を行い、前祭、後祭それぞれ 1 つずつの計 2 つの山鉦で実施しました。

また、その際にポータブル電源を提供していただいたメーカーと協力し、梅小路公園「朱
雀の庭」での紅葉ライトアップの電源の一部として、太陽光パネルとポータブル電源を使
用しました。

(2) 会費等を活用した自主事業(1708)

K E S 登録事業所が京都で希少となった植物を育成するなどの生物多様性保全活動を
ネットワークとして進める「K E S エコロジカルネットワーク」の事務局を担いました。

京都市立明德小学校の学校林である「わきの山」において、2011 年より京のアジェンダ
21 フォーラム京都環境コミュニティ活動 (KESC) として、明德小学校、明德小学校学校運
営協議会、および地域企業等を中心に里山保全活動を行ってきました。令和 5 年度からは
きょうと生物多様性センターと協力し、わきの山の持続可能な里山利活用の形を検討して
います。令和 7 年度は近隣住宅への迷惑防止のため、教育委員会により主に周縁部の伐採
工事が行われ、工事後の状態を踏まえた管理や利用方法を検討しました。

(3) ネイチャーポジティブプラットフォーム(1710)

京のアジェンダ 21 フォーラムを活用し、脱炭素、資源循環、生物多様性保全の 3 つの環
境課題を解決するためのプラットフォーム構築に向けて企画準備を行いました。

その中で、京のアジェンダ 21 フォーラム団体会員を対象としたアンケート調査や、試行
イベントとして学習会とツアーを開催しました。

◇試行イベント

開催日	行事名	場所	人数
11/13	京がつづくカレッジ～「環境対応」から 「環境を活かす」経営へ～	KYOCA 京果会館 (オンライン併用)	25 人
12/12	地域企業をめぐる食品ロスの循環ツアー	西喜商店、マガザンキ ョウト、CORNER MIX	6 人

6 その他調査・研究・開発・発信(1501) ※自主事業

(1) 学会等での発表、研究会・実行委員会等への参画

会員となっている学会等に参加し、口頭発表等を行っています。今年度は、日本環境教育学会で2名が口頭発表を行いました。また、学会から依頼で、情報誌や会誌に当協会職員が寄稿しました。他団体の実行委員会、各種会議の委員等に就任しています。

◇学会発表

実施日	事業名	主催
10/10～12	日本環境教育学会第36回年次大会での発表	日本環境教育学会

◇寄稿

学会名	発行誌名
日本福祉教育・ボランティア学習学会	「ふくしと教育」第44号
関西環境教育学会	「人・環境・未来」第8号

◇実行委員会等への参画

名称	参加方法
京都市内博物館施設連絡協議会	加盟館
京都市科学系博物館等連絡協議会	加盟館
京都はぐくみネットワーク	幹事団体
「青少年のための科学の祭典」京都大会実行委員会	メンバー
一般社団法人持続可能環境センター	地域パートナー
京都岡崎魅力づくり推進協議会	会員団体
木と暮らすデザイン KYOTO	パートナー
再エネ100宣言 REAction	参加団体
デコ活応援団	参加団体
関西 SDGs プラットフォーム	会員
持続可能な地域創造ネットワーク	正会員
京都未来門プロジェクト会議	メンバー
日本環境教育学会「環境学習施設ネットワーク」分科会	メンバー
京都市自転車政策審議会	委員
島本町環境保全審議会	委員
京都府地球温暖化防止活動推進連絡調整会議	委員
嵐山交通対策研究会	委員
東山交通対策研究会	委員
これからの100年を紡ぐ企業認定	審査委員

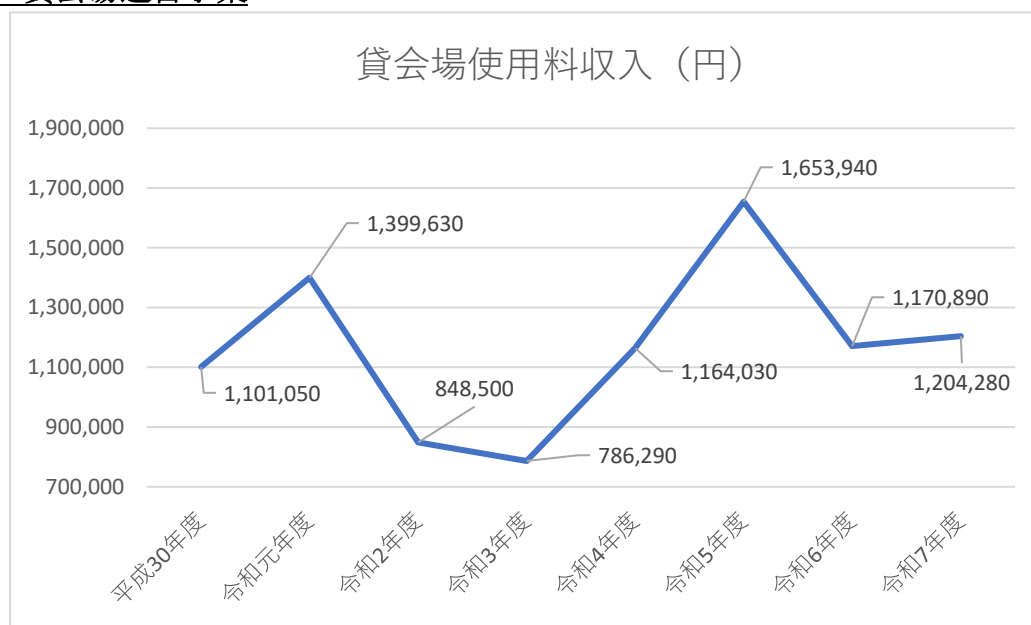
7 万博のフードトラックにおけるリユース食器運用事業(1524) ※自主事業

(特非) 地域環境デザイン研究所ectone、(公財) 千里リサイクルプラザ及び当協会の連合体として、大阪・関西万博におけるEXPOフードトラックエリアにおいて、リユース食器運用事業を実施しました。当協会は主にボランティア研修等を担当する予定でしたが、実

際は博覧会協会がボランティアの管理を行うことになり、当協会による研修を実施することはできませんでした。

Ⅲ 収益事業

5101 貸会場運営事業



Ⅳ その他事業（相互扶助等事業）

6101 機密書類リサイクル事業

- ・企業向け講座や啓発イベント等で、利用を呼びかけました。
- ・禁忌品混入防止、過積載防止について、引き続き啓発を行いました。

2025 年度回収実績 (kg)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
83,470	90,160	94,060	82,430	57,990	63,050

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
61,480	60,420	59,540	55,780	61,500	72,050	841,930

（参考）前年同月合計 810,930 kg （前年比 103.8%）

V 附属明細書

2025 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2026 年 5 月

公益財団法人 京都市環境保全活動推進協会

～一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則（抄）～

第 34 条 事業報告

3 事業報告の附属明細書は、事業報告の内容を補足する重要な事項をその内容としなければならない。